

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <https://kohoku-saibora.jimdo.com/> FB 港北区災害ボランティア連絡会

第60号

2017年12月



*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

拠点訓練に参加、連絡会をPR

— 新吉田第二小、高田東小で実施 —

永年ラブコールし続けてきたものの実現しなかった拠点訓練での連絡会の参加の機会が持てました。災害時の拠点運営は地域の人々で行われるのはもちろんですが、殆どの方が初体験となる避難所運営にはいろいろな困難が発生します。なおかつ拠点にはもう一つ在宅避難者への支援と言う使命も付け加えられました。これはとても大事な事であるけれども、とても難しいことです。多くの人手が必要な作業にボランティアは欠かせないでしょう。

今回の訓練は既に計画が出来上がった段階で区の口利きに応じてくれた形だったので、参加形態はニュース・会のリーフレットと災害ボランティアセンターの案内文を挟んで参加者全員に渡しました。その他災害時のボランティア活動の写真や防災クイズや防災パネルを展示しました。また連絡会を紹介する時間も頂けたので一言述べることが出来ました。その中で特に地域の方が関心を示したのはハザードマップでした。既に配られているもののこのような機会であれば多くの住民は見ないのでしょう。これを機会に防災を自分ごととして捉えて欲しいものです。しかし逆に考えると訓練での啓発活動の意味合いの大きさを示しているとも言えます。

そのような反応や反省を元に、来年度はもっと多くの拠点訓練に具体的に关われるよう区に調整をお願いしてあります。高田東小では区長もお見えだったので50号への寄稿のお礼とともに今後もよろしくお願ひしたい旨のご挨拶もしてきました。参加拠点が増えれば多くの会員でになわなければなりません。次年度は嬉しい悲鳴を上げたいですね。(宇田川)



展示写真やパネルに見入る参加者

拠点訓練に参加して

～拠点訓練に参加した会員のレポート～

10月29日篠原小学校拠点訓練に参加しました。2つ目の台風の影響で、豪雨の中体育館での開催です。参加者は250余人、避難所開設までの手順確認から始まりました。体育館の壁には①備蓄庫(雨天のため実物見学は中止)の内容リスト②災害時周辺の医療機関の開設情報リスト表③周辺被災情報の表④避難所となった場合の篠原小学校の配置図などが張り出されました。そばにいた民生委員は「これらの情報を是非要援護者に伝えなければ」と写真を撮っています。「できればご本人に来て欲

しいのだけれど…。なかなか難しくて」。社協からも要援護者への理解とさまざまなアイテムの説明もあり、皆で使える避難所になっていくことを望みます。区役所からはエアーマットやペットのゲージの展示があり、「避難所にはペットは連れて来られません。普段からゲージの中でおとなしくしてられるように、ワンちゃん、猫ちゃんの訓練をしてください」と案内がありました。感震ブレイカーの説明や各家庭でできる防災の工夫の説明などかなり盛り沢山の内容でした。

あえて上履きを持って行きませんでした。靴下一枚の体育館の床は冷く、しかも雨にぬれた身体には辛かったです。家庭防災員が新聞紙でスリッパを作り配ってくれました。紙のスリッパと侮ることなかれ！威力は抜群です。歩き廻ると壊れてしまいますが、テープで補強するなどすれば十分使えます。訓練中「発災時に今回の人数が体育館で生活ができるかという、広さを考えてもそれは無理ね。」と、参加者は口々に話をしていました。防災の大切さを実感した訓練でした。（小澤）

常総市を訪ねて

連絡会の常総市訪問がきっかけとなって、区内4地区から常総市への研修ツアーが出ました。それぞれ有意義な研修となったようで「今までの研修でいちばん良かった」との声も聞かれました。これは現地の横田さんや染谷さんのご尽力が大きいと思います。

新吉田地区 藤岡圭子

11月7日素晴らしい秋晴れの日、新吉田地区社協の評議委員を対象とした研修会（町内会長、民生委員、地区役員）37名が常総市を訪問できるご縁をいただきました。二年前の9月、あの日のニュースを聞くまで、常総市？一体どの辺り？と思わず地図を見たものでした。一躍有名となったこの地の悲惨な出来事。今もまだそのツメ跡が残っているのでは…復興にもまだ時間がかかっているのでは…とバスの中では色んな思いが巡っていました。しかし、全くと言っていいほどその気配を感じる事が出来ないのです。決壊した川の周辺もすっかりきれいに修復され、イベントも計画されている程の復興の様子を見て、行政も、住民の方も一丸となって取り組んでこられた様子がよくわかりました。

次に私たちは JUNTOS ハウスの横田さんの説明を聞く事が出来ました。体験者だからこそいえる事。だからこそみんなが繋がる事ができた事など、地域の強いチカラを感じました。鬼怒川と言う一級河川と私たちの鶴見川では比較にならない大きさかも知れませんが、小規模ながら何となくよく似たような流域の風景はとても懐かしく親しみやすい光景でした。

もし、鶴見川の上流で大雨が降り、自分の地域に避難命令が出たら私はまず何をすれば良いのだろうか？すぐに避難できるだろうか？要援護リストの方たちにちゃんと連絡が取れるよう日頃から顔と顔が繋がっているだろうか？と…不安になり

ました。たとえ年に一度の防災訓練に参加していたとしても、避難所に必要なものを持っていかれるかどうか？そんなことすら心配でした。お話の中で、常総市では避難訓練をしていなかったとか。

私たちの地域では訓練時の参加者が世帯数の割に決して多いとは言えない現実があります。そんな時、もし、常総市のような水害が発生したとしたら一体どうなるのでしょうか。

今回の訪問は、そんな意識の見直しを図る良いチャンスをいただいたと感じています。辛い体験を語り継ぎ、伝授いただいた者が、次への防災意

識をしっかり受け止め、みんなで助け合える体制を作って行く事こそが何より大事な事だと感じながら、お世話をいただいた方々に感謝しつつ、常総市を後にしました。



染谷さんプロデュースのお米パック
セミナーなどで好評販売しました

■ 1月定例会のお知らせ ■

1月の定例会は夜間開催です

1月17日(水) 18:30~

普段お仕事などで参加できない会員の皆さん
ぜひ参加してください。



**「平常時から困難を抱えている人は
災害時により困る」を解決する地域の力！
連載 その三**

災害時の支援をより細やかにするためには、ふだんからの地域の力を知り合うことです。市民活動が盛んだと言われる横浜市ですが、港北区は其中でもより活発だと言われています。そんな地域の力の紹介シリーズです。

**坂の上の菊名西口住宅地で
おでかけバスを運行**

**～誰もが気軽におでかけし、
ふれあうことができるまちを
みんなで作ることをめざして～**

コミバス市民の会 砂田正子

坂の多い菊名西口周辺の住宅地で、菊名駅を起点に、妙蓮寺～菊名～大倉山をぐるっと回り菊名駅に戻ってくるコミュニティバスを毎週火曜日に運行して7年になります。バスといっても地域の方からの善意でお借りしている8人乗りワゴン車ですが、利用される方はおでかけバスが利用できる火曜日に、通院、お買い物、おでかけと、なくてはならない「足」となり、ふれあいの場にもなっています。

火曜日の9時から3時までの6便の運行を支えるのは地域のボランティアで、利用者と同じコミバス市民の会の会員です。車内では知らない人とお買い物情報を交換したり、時事ニュースに花が咲いたり。昔話でかつての街の様子を知ることもあり、ボランティアで添乗しているわたしにとっても、楽しい会話に心が和みます。触れあうことは人を元気にします。高齢の方の利用が多いのですが、ベビーカーのママも中年の方も大歓迎です。まず試乗してみてください。どなたでも試乗してみてください。

現在、会員は70余名。誰もが元気に暮らせる街にしたいですね。会では、火曜日の運行のほか、地域の敬老会、ふれあ



い昼食会、ミニディサービスなどの送迎依頼にも応えてサポートしています。高齢化の進行で、送迎サポートの要望は今後も増えていくと予想されます。みんなが元気に地域で暮らせるように多くの方に利用していただきたいですし、同時に、運転・添乗ボランティアにも参加する方が増えて、菊名だけでなく、あちこちで移動のサポートができるようになるといいな、と思います。

知恵をだしあい協力して、地域の資源と地域の課題を結びつけていくことで、災害にも強いまちにしていきたいと思います。

**この取組みも災害時の支え合いを強化するものです。
区内で初めてのフードドライブ**

去る10月26日に、ほくほくフェスタ（港北区社会福祉大会）を開催しました。福祉保健のお祭りで、地域活動・ボランティア功労の方の表彰やフォーラム等を例年行っています。

その中で、今年は初の試みとして「フードドライブ」を実施しました。これは、食品の廃棄を無くして有効活用していく取り組みで、ご家庭で食べきれず眠っている食品（お中元でもらったもの、缶詰、おみやげなど）をご寄付頂き、必要としている方や地域食堂へ届けようというものです。

他区ではすでに行われているところもありますが、港北では初めてのことで、またイベント実施の一日だけでどれくらいの寄付が集まるのか、直前まで不安だったのですが、ふたをあけてみるとブースには次々と区民の方が訪れ、段ボール八箱あまり、計300点弱の食品をお寄せいただきました。

中身は乾麺や缶詰、油やしょうゆなどの調味料、海苔や飲料水など、賞味期限も長く、またパッケージもじゅうぶんにきれいなものがありました。



「今晚食べるものがない」「次の収入までに少し食べ物があれば」という話が港北区では遠い話の

ように語られがちですが、相談窓口などでは決して少ない事例ではありません。また、交流を目的に、みんなで一緒にご飯を食べることができる地域食堂も増えてきました。今回これだけたくさんのあたたかい気持ちをお寄せいただいたことは、港北でも「人ごとではない」と感じて下さる方が多くいると実感しました。また、地域食堂などの活動を後押ししていく力がこの町にはあるなとも思い、誇らしく思った次第です。

今回の食品のお渡し状況やフードドライブの今後の展開については、また広報などでお知らせしていく予定です。気持ちをつなげて、近所への気遣いを。おなかにも愛を。区社協としても模索をしながら食に関する支援の活動を続けていこうと思います。(港北区社協 片桐明日美)

リレー連載 我が家の防災 ⑧

鈴木さんちの防災

まわって来たぞ、「我が家の防災」シリーズ。これを機会に、我が家の防災準備を進めようと思っていたのですが、やはり原稿締め切りぎりぎりになってしまいました。そこで、苦し紛れに、最近めっきり増えてきたなあと感じる「洪水警報」が出るたびに見て回る、あちこちの情報サイトについて書かせていただきます。

住んでいるのが大倉山5丁目で洪水ハザードマップでも3メートル浸水地帯なので、時間雨量が80ミリを超えると、「大変です!」。以前も、「さすがに今日はよく降ったなあ〜」と家に帰ると、家の前の通りに消防車が止まっていて、「内水氾濫」が起こった後でした!

それ以来、横浜市防災情報サイトに登録して、「豪雨お知らせ情報」とか「注意報警報情報」などが携帯に届くように設定しました。そのサイトからは、雨雲の様子などが直接チェックできます。また、台風時に私が一番見るのは、鶴見川のリアルタイム水位情報です。こちらは、国交省京浜河川事務所サイトから「川の防災情報 - 鶴見川亀の子橋観測所の断面図」を見ることができます。私は、いままで最大に小机の多目的遊水地の越流が起きた時もこのリアルタイム情報を見ていたように思います。また、そのようなときに必ずチェックするのが、鶴見川流域ネットワークの岸由二先

生のFacebookです。

普段から、防災情報をとることを続けておくことは、万が一の時にどこを見れば、どのような情報が取れるのかといったことがわかり、まさに、「我が家の防災準備」です。ただ、電源がなくなる、情報が遮断されるということも十分に考えられます。そのような時にどのような対応方法があるかも今後考えておかななくてはと改めて思いました。(鈴木智香子)

横浜市防災メール

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikannri/email/>



311に大綱橋付近を津波が遡上してきた写真



平常時の写真

編集後記

☆拠点訓練参加や販売活動などの連絡会の活動が多様化しています。多くの会員の参加でより活性化しましょう。(宇田川)

☆毎日の生活の様々なことが、災ボラの活動につながっていくのですね。(付岡)

☆火災の避難訓練をしている建物としていない建物で、被災時の怪我人の数が大きく異なります。訓練に参加することが自分を守ります。

(中島)

☆私は横浜防災メールの他、港北区防犯メールにも登録しています。(室伏)